

## 2022年3月期(2021年度) 中間連結決算について

### 1. 2021年度中間連結決算 … 営業収益が2期ぶりの増収

新型コロナウイルス感染症の影響により、引き続き出入国制限や厳しい検疫体制が世界的に敷かれていることに加え、日本国内においても上期期間中は度重なる緊急事態宣言や、まん延防止等重点措置が発出されていたことなど、依然として航空機発着回数及び航空旅客数がコロナ禍前の水準に戻るには厳しい環境にあるものの、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催や、本邦LCC各社による夏季需要に対応する復便もあったことなどから、航空取扱量が増加した結果、営業収益は前年同期の332億円から68億円増収の400億円となり、2期ぶりの増収となりました。

長期化する厳しい経営環境を受け、当社では空港の安全と安定運用を大前提に運用効率化を図るなど、前期から継続して最大限のコスト削減に努めていることなどもあり、営業損失は前年同期の306億円から89億円改善の216億円、経常損失は前年同期の301億円から80億円改善の220億円、親会社株主に帰属する中間純損失は前年同期の424億円から194億円改善の230億円となりました。

なお、航空会社やテナント等の費用負担を軽減し、航空機の運航や店舗運営を継続していただくため、空港関連事業者への支援として、各種料金の減免措置を実施いたしました。

(単位:億円)

科 目	中間期(4月1日～9月30日)			
	2020年度	2021年度	増 減	
	実績 A	実績 B	金額 B-A	% B/Ax100
営 業 収 益	332	400	68	120.6
営 業 費 用	638	617	△21	96.6
営 業 利 益	△306	△216	89	-
経 常 利 益	△301	△220	80	-
親会社株主に帰属する 中 間 純 利 益	△424	△230	194	-

(注)決算数字は、単位未満を切り捨てて表示しています。

#### 【参考】2021年度中間期航空取扱量実績

区 分	中間期(4月1日～9月30日)			
	2020年度	2021年度	増 減	
	実績 A	実績 B	数量 B-A	% B/Ax100
航空機発着回数(万回)	4.8	6.5	1.7	134.5
国際線	3.8	5.0	1.2	130.6
国内線	1.0	1.5	0.5	149.3
航空旅客数(万人)	136	262	126	192.6
国際線	52	93	42	181.3
国内線	84	168	84	199.5
国際航空貨物量(万トン)	89	128	40	144.5

(注)航空取扱量は、単位未満を四捨五入して表示しています。

## 2. 2021 年度連結業績予想 … 前回発表の航空取扱量見通し及び業績予想を据え置く

本年 5 月 27 日に発表した今期航空取扱量見通しは、世界各国の感染状況やワクチン接種の進捗及びこれらを踏まえた出入国制限の緩和時期により、大きく左右されることを前提に想定しておりました。当該航空取扱量見通しの発表から現在までに、日本国内においてワクチン接種の進捗は順調に推移し、変異株を含め新型コロナウイルスの感染状況も減少傾向を示しており、また、国際航空貨物量についても引き続き好調であるなど、足元の状況は、前回発表時に想定していた外部環境から大きな変化がない状況です。一方で、今後については、未だ国際的な出入国制限の緩和状況など不確定要因が多く、先行きが不透明であることから、航空取扱量見通し及び業績予想については当初の見通しを据え置くこととしました。

なお、実際の業績はこれら航空需要など経営環境の変化により大きく異なる結果となる可能性があります。前期から継続して行っている空港の安全と安定運用を大前提とした最大限のコスト削減を進め、業績改善に努めてまいります。

### 【参考】前回発表時の取扱量見通し及び業績予想

区 分	2020 年度	2021 年度	増 減	
	実績 A	見通し B	数 量 B-A	% B/Ax100
<b>航空機発着回数（万回）</b>	<b>10.6</b>	<b>11.9</b>	<b>1.3</b>	<b>112.3</b>
国際線	8.6	9.6	1.0	111.6
国内線	2.1	2.3	0.2	109.5
<b>航空旅客数（万人）</b>	<b>325</b>	<b>510</b>	<b>185</b>	<b>156.9</b>
国際線	127	230	103	181.1
国内線	198	280	82	141.4
<b>国際航空貨物量（万トン）</b>	<b>209</b>	<b>214</b>	<b>5</b>	<b>102.7</b>

(注)航空取扱量は、単位未満を四捨五入して表示しています。

(単位:億円)

科 目	2020 年度	2021 年度	増 減	
	実績 A	予想 B	金 額 B-A	% B/Ax100
営 業 収 益	718	800	81	111.4
営 業 費 用	1,293	1,420	126	109.8
営 業 利 益	△575	△620	△44	-
経 常 利 益	△573	△660	△86	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	△714	△670	44	-

(注)決算数字は、単位未満を切り捨てて表示しています。

### 3. セグメント別 2021 年度中間連結決算

(単位:億円)

	中間期(4月1日～9月30日)			
	2020年度	2021年度	増減	
	実績	実績	金額	%
営業収益※	332	400	68	120.6
空港運営事業	158	195	36	122.9
リテール事業	36	41	5	114.1
施設貸付事業	121	148	26	122.1
鉄道事業	14	14	0	100.1
営業費用	638	617	△21	96.6
営業利益	△306	△216	89	-
空港運営事業	△309	△255	53	-
リテール事業	△51	△40	11	-
施設貸付事業	51	74	23	146.6
鉄道事業	3	3	△0	97.9
経常利益	△301	△220	80	-
親会社株主に帰属する 中間純利益	△424	△230	194	-

※ 外部顧客に対する売上高

(注) 決算数字は、単位未満を切り捨てて表示しています。

- 空港運営事業 : 航空機発着回数及び航空旅客数がともに増加したことなどから、空港使用料収入は前年同期比 10.7%増の 104 億円、旅客施設使用料収入は前年同期比 96.8%増の 16 億円となり、営業収益は前年同期比 22.9%増の 195 億円、営業損失は 255 億円となりました。
- リテール事業 : 航空旅客数の増加に加え、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の開催期間中に売り上げが増加したことなどから、子会社が運営する直営店舗の物販・飲食収入は前年同期比 18.1%増の 20 億円、構内営業料収入は前年同期比 29.7%増の 8 億円となり、営業収益は前年同期比 14.1%増の 41 億円、営業損失は 40 億円となりました。
- 施設貸付事業 : 新型コロナウイルス感染症の水際対策強化に伴う新規貸付等により建物貸付料収入等が増収となったことなどから、営業収益は前年同期比 22.1%増の 148 億円、営業利益は前年同期比 46.6%増の 74 億円となりました。
- 鉄道事業 : 線路使用料収入等に変化がないことから、営業収益は 14 億円、営業利益は 3 億円と前年同期並みとなりました。

## 4. 財政状態

(注)決算数字は、単位未満を切り捨てて表示しています。

### <連結貸借対照表>

(単位:億円)

科目	2020年度期末	2021年度中間期末	増減	
	実績	実績	金額	%
流動資産	4,541	4,763	221	104.9
固定資産	7,584	7,543	△40	99.5
資産合計	12,126	12,306	180	101.5
流動負債	1,092	1,310	218	120.0
固定負債	7,635	7,834	198	102.6
負債合計	8,728	9,145	417	104.8
純資産合計	3,397	3,161	△236	93.0

- 資産合計は、現金及び預金の増加等により、前期末比 1.5%増の 1 兆 2,306 億円となりました。
- 負債合計は、短期借入金増加や社債の発行等により、同 4.8%増の 9,145 億円となりました。
- 純資産合計は、同 7.0%減の 3,161 億円。自己資本比率は、同 27.4%から 2.4 ポイント減少し 25.0%となりました。

(注)決算数字は、単位未満を切り捨てて表示しています。

### <参考:長期債務の推移>

(単位:億円)

科目	2020年度期末	2021年度中間期末	増減		平均金利	
	実績	実績	金額	%	2020年度期末	2021年度中間期末
有利子債務	7,773	7,969	196	102.5	0.56%	0.52%
社債	3,690	3,890	200	105.4	0.53%	0.45%
長期借入金	4,083*	4,079*	△3	99.9	0.58%	0.58%
無利子債務						
長期借入金	-	50	50	-	-	-
合計	7,773	8,019	246	103.2		

※財政融資資金の借入残高(4,000 億円)を含む

## 5. キャッシュ・フローの状況

(注)決算数字は、単位未満を切り捨てて表示しています。

(単位:億円)

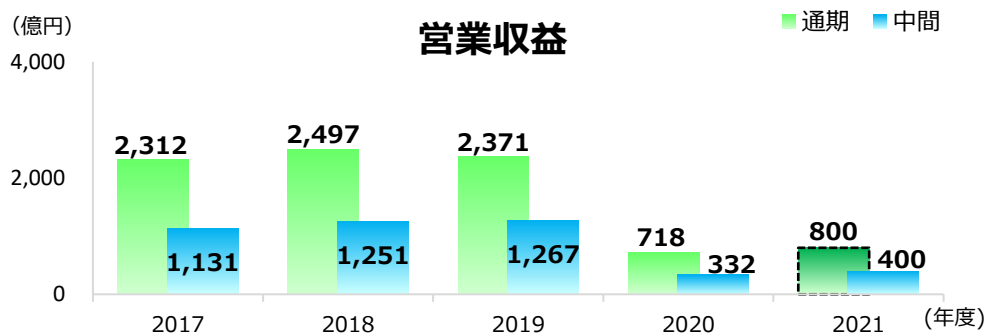
科目	中間期(4月1日~9月30日)		増減
	2020年度	2021年度	金額
	実績	実績	
営業活動によるキャッシュ・フロー	△150	△10	140
投資活動によるキャッシュ・フロー	△526	△127	398
フリー・キャッシュ・フロー	△677	△138	538
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,644	444	△1,199

- フリー・キャッシュ・フローは、138 億円のキャッシュアウト(前年同期比 538 億円減)となりました。
  - 営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前中間純損失の改善等により、キャッシュ・アウトは前年同期に比べ 140 億円減の 10 億円となりました。
  - 投資活動によるキャッシュ・フローは、固定資産の取得による支出の減少等により、キャッシュ・アウトは前年同期に比べ 398 億円減の 127 億円となりました。
  - 財務活動によるキャッシュ・フローは、社債の発行等による調達があったものの、前年同期中に財政融資資金や短期資金の調達等があったことにより、キャッシュ・インは前年同期に比べ 1,199 億円減の 444 億円となりました。

**参考**

**【連結決算推移】** 2021年度通期は予想

(注) 決算数字は、単位未満を切り捨てて表示しています。

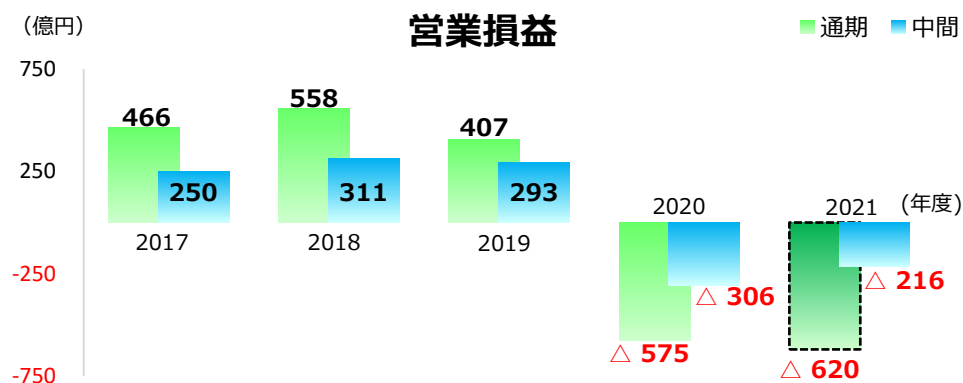


<2021年度中間期>

・2期ぶりの増収

<2021年度通期予想>

・3期ぶりの増収となる見通し

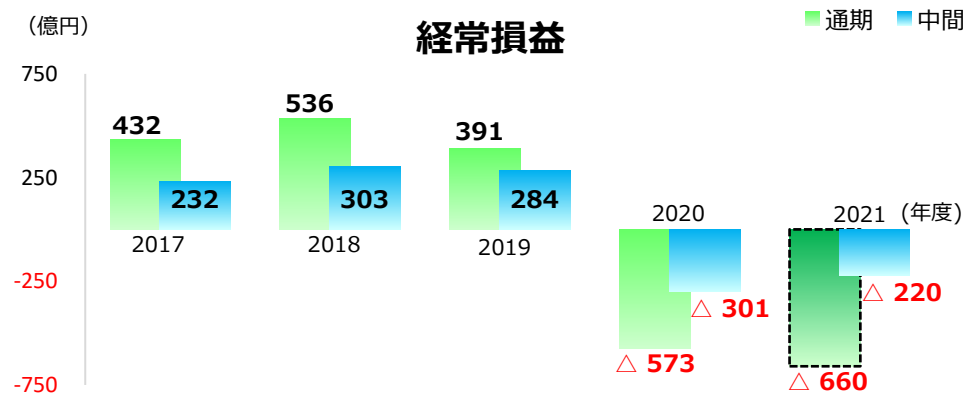


<2021年度中間期>

・前年同期306億円の損失から  
89億円改善

<2021年度通期予想>

・2期連続の損失となる見通し

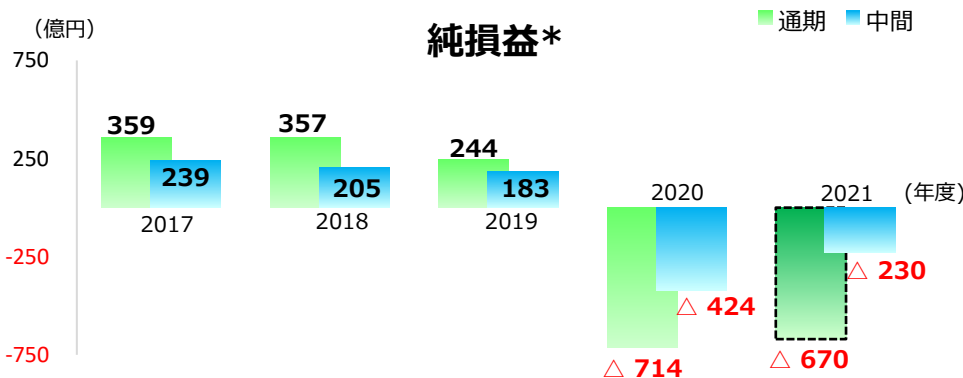


<2021年度中間期>

・前年同期301億円の損失から  
80億円改善

<2021年度通期予想>

・2期連続の損失となる見通し



<2021年度中間期>

・前年同期424億円の損失から  
194億円改善

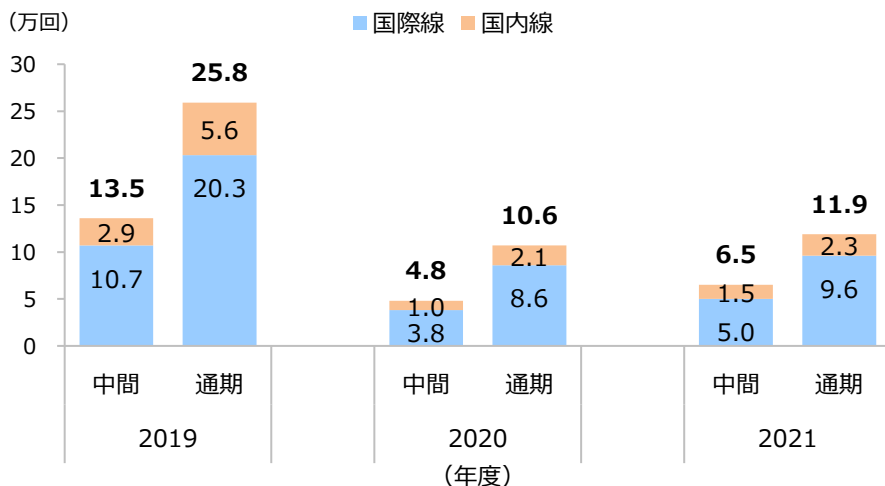
<2021年度通期予想>

・2期連続の損失となる見通し

\*親会社株主に帰属する当期純損益

**【航空取扱量推移】** 2021 年度通期は見通し

**航空機発着回数**



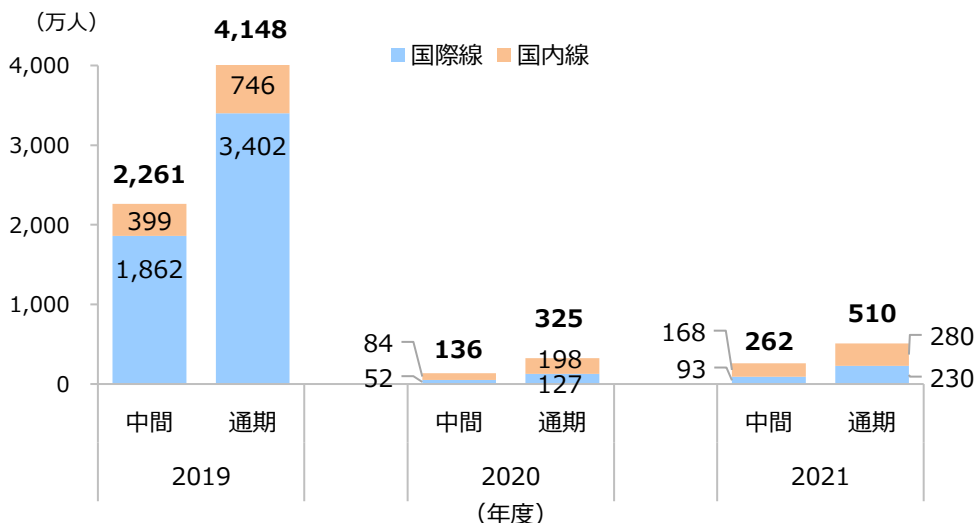
＜2021 年度中間期＞

- ・全体：2期ぶりの増加
- ・国際線：2期ぶりの増加
- ・国内線：2期ぶりの増加

＜2021 年度通期見通し＞

- ・全体：2期ぶりの増加となる見通し
- ・国際線：3期ぶりの増加となる見通し
- ・国内線：2期ぶりの増加となる見通し

**航空旅客数**



＜2021 年度中間期＞

- ・全体：2期ぶりの増加
- ・国際線：2期ぶりの増加
- ・国内線：2期ぶりの増加

＜2021 年度通期見通し＞

- ・全体：3期ぶりの増加となる見通し
- ・国際線は3期ぶりの増加となる見通し
- ・国内線は2期ぶりの増加となる見通し